

知覚動考

寒河江市立南部小学校
校長室通信
校長 白田 敏幸

～「誰一人取り残さない 子供の可能性を引き出す学校づくり」～

子供が幸せになる方法

子供が幸せになるために、何が必要でしょうか。安心できる環境、友だちとの関係、学びの楽しさ——どれも大切な要素です。けれども、私はもうひとつ、見落としはならない大切なものがあると思っています。それは、「**親が幸せでいること**」です。

子供は、親の表情や雰囲気をととても**敏感に感じ取ります**。親が笑顔でいるとき、楽しそうにしているとき、子供はその空気を全身で受け止めています。そして、ふとした瞬間に「**もしかしたら、自分が親を幸せにしているのかもしれない。**」と感ずることがあります。

この「自分が誰かを幸せにしている」という感覚は、子供にとって非常に大きな意味をもちます。それは、**自己肯定感の土台**となり、「**自分には価値がある**」「**自分は誰かの役に立っている**」という**実感**につながります。そうした感覚が、子供の心の奥深くに「根っこ

の幸せ」として根づいていくのです。
もちろん、親だって人間です。いつも笑顔でいることは難しいですし、仕事や家庭のことで悩みや疲れを抱えることもあります。けれども、子供と過ごす時間の中で、ほんの少しでも「**楽しいね**」「**うれしいね**」と**感じる瞬間を共有する**ことができれば、それは子供にとってかけがえのない贈り物になります。

例えば、休日に一緒に散歩をする。夕食の準備を手伝ってもらいながら、ちょっとした会話を楽しむ。寝る前に「今日、楽しかったね」と声をかける。そんな何気ない時間の中に、子供は親の幸せそうな表情を見つけ、自分の存在が誰かの喜びにつながっていることを感じ取ります。

学校でも、子供たちは「誰かの役に立ちたい」「喜ばれたい」という気持ちをもっていきます。友だちに優しくしたり、先生に褒められたりすると、うれしそうに目を輝かせます。そうした姿を見るたびに、私は「**人は誰かの幸せに関われることで、自分自身も幸せになれるのだな。**」と感じます。

だからこそ、家庭の中で親が幸せでいることは、子供の心の成長にとってとても大切なことです。親が笑顔でいると、子供も安心します。親が楽しそうにしていると、子供も「自分も楽しくしていいんだ。」と思えます。**親が幸せそうにしていると、子供は「自分がいてよかった。」と思える**のです。

もちろん、子育ては楽しいことばかりではありません。思い通りにならないこともありますし、心配や不安もつきものです。でも、そんな中でも「親自身が幸せでいよう。」と意識することが、子供にとっての大きな支えになります。

子供が幸せになるために、親（大人）が幸せでいること。それは、特別なことをする必要はありません。**親（大人）が笑っている、親（大人）が楽しそうにしている——その姿こそが、子供にとっての「こころの栄養」**なのです。

これからも、学校と家庭、そして地域が手を取り合いながら、子供たちの幸せを育んでいけたらと思います。親の笑顔が、子供の笑顔につながる。そんな日々を、みなさんと一緒につくっていただけることを願っています。